

総合海洋政策本部参与会議
自律型無人探査機(AUV)¹戦略プロジェクトチーム(PT)
第4回会合 議事概要

- ◆ 日 時:令和5年8月30日(水)10時00分～12時00分
- ◆ 場 所:オンライン(Webex)
- ◆ 議事概要(参与・有識者委員の発言は○、事務局等の発言は●で示す):

1. 開会

[資料1について、事務局から説明。]

2. 官民プラットフォーム経過報告

[資料2について、事務局から説明。]

3. 将来ビジョン・技術マップについて

[資料3-1、3-1について、官民プラットフォームの両議長から説明。以下、意見交換。]

- ロードマップは、将来の技術スペックを考え、そこからバックキャストして、どの時期にどのような技術開発が必要かを示すもの。ユースケースに対して必要な仕様も議論してもらえたらと思う。また、難易度やコストについても見解があると良い。将来、開発が期待されている支援母船なしで運用できるタイプのAUVは、高度な技術を要する方に分類される。小型安価なものについては、AUVの普及率が目標値になる。様々なボトルネックをどのようにいつ解決していくのかを示すことが必要。
- 既存のAUVの利用促進を行いながら、開発にも力を入れていくことが必要。また、量子や蓄電池などの関連する産業戦略等の取組とAUV戦略PTで議論しているロードマップを整合させ、成果に結び付けていく必要がある。
- 利活用の分野として、防災・減災が項目立てされたのは良い。広域捜索に限らず、船舶事故の際の現場での確認や、油流出時の漏出源の特定等への活用が期待できる。また、テロ対策や臨海部の海中警備・警戒等にも現行技術を活用していけるのではないかと。
- AUVが大量生産されるような小型安価型によって紛失責任の負担が軽減されれば、AUVの実証試験の促進が期待される。
今回の議論は、輸出入に関するパッシブ(輸入できなくなれば、国産あるいは友好国間で対応)

¹ Autonomous Underwater Vehicle の略。

とポジティブ(戦略的な輸出品の創出)の二つの側面にも沿っている。また、人材育成について、官民プラットフォームの報告書にもきちんと含めていただきたい。

技術マップについて深度センサー、圧力センサーについて追記が必要。また、圧力容器についても、日本で製造できる状態を確保する必要がある。また、半導体や電子基板の入手もサプライチェーンの観点から検討しておくべき重要な要素である。

4. AUVの社会実装に向けた促進方策について

[資料4について、事務局から説明。以下、意見交換]

- 「人材育成」については、海洋分野以外で活躍している人材をどう巻き込むか、人材の育成とともに「確保」をセットにして考える必要がある。また、デュアルユースについて、海外事例を調べていく必要がある。
- 実証事業については、国土交通省で行った際の知見を活かしてほしい。
- 実証事業のようにAUVを使用するインセンティブを与えて利用促進する方法は、事業者にはAUVの利便性や効率性を実体験する機会を与えることになり、利用のハードルが下がり、実利用につながっていくと考える。実際にAUVを使う場面で補助金を出し、事業者の利用をサポートする考え方等があると良い。
- 今回の実証事業は、補助金を出して利用を促すものではなく、既存のAUVを用いて利用できるか実証を行うもの。AUVの所有者、潜在的利用者等にてチームを形成してもらい、そのチームに対してサポートを行う。
- データを集め、オープンデータとすることも重要。
- AUVを現在使用している者が主になって取り組むことにより、AUVを使用していないが、利用者になる可能性がある者が主体となる実証となることを期待する。

5. 閉会

以上